

長崎港内港再開発事業(長崎水辺の森公園)

受賞機関 長崎県臨海開発局港湾課

はじめに

長崎は、狭隘な平坦地に多くの都市機能が過度に集中しており、交通渋滞や都市部の緑地・広場などのオープンスペースの不足しているため、市民や観光客が憩える水辺の空間の設置が望まれていた。このため、長崎港内港再開発事業の一環として、「長崎水辺の森公園」を整備することで、市民が港湾とふれあうことができる場を創出し、あわせて港湾利用者や市民の休息、緊急時の避難広場としても利用できるようにした。



事業概要

港湾名：重要港湾 長崎港

事業期間：平成元年度～平成15年度

事業費：28,000百万円

事業の特徴

「長崎水辺の森公園」は、「環長崎港アーバンデザイン会議」の中で複数の専門家の意見を聞きながら、新しい長崎の将来を感じさせる空間の創造、自然との共存を体感できる場の創出、季節の変化を感じさせる風景づくり、の3つをコンセプトとし、都市デザインの観点から環境面はもちろんのこと、歴史的、観光的ポテンシャルが高い長崎港周辺の特性を生かし、周辺地域との景観性や機能性に配慮した魅力ある公園づくりに取り組んだ。

植栽については、シーズンを五季(春、ゴールデンウィーク、夏、秋、冬)に分け、シーズンごとに

特徴ある景観が出現するように約1,100本を植樹した。

公園内水路護岸は、自然石を利用し目地をモルタル詰めしない「空石積」としたことで、隙間には海水が出入りし、生態系の底辺を支える多くの微生物、小動物のすみかとなっている。

また、近くの山々で生じた湧水を公園内まで引き込むことにより、この湧水を公園内の噴水、せせらぎ、植栽への散水、トイレなど多くのものに有効活用し、維持管理費の軽減を図ることができたほか、湧水と海水が混ざり合う水域には、多くの生物が活発に活動する生物の生息拠点として「生命に学ぶ学習の場」を創出できた。



スロープ写真



噴水写真

公園内の全ての施設は、長崎県福祉のまちづくり条例に基づき整備しており、さらには、階段手すりに点字で「登り段」「下り段」の表示をし、高齢者や身障者にも優しく、かつ景観的にも配慮した施設とするとともに、近くのバス停や電停から公園までの距離を約30m～400mとし、多くの人々が訪れやすい公園とした。

「長崎水辺の森公園」は、平成16年3月27日にオープンして以来、イベントだけでなく個人的な趣味での散歩、絵描きなどを目的として訪れる人も増えてきているが、今後も多くの市民や観光客が訪れ、ゆっくりとした空間の中でくつろいでいただけるものと期待している。

賛助会員 扇精光(株)、新構造技術(株)長崎事務所、東洋建設(株)長崎営業所、パシフィックコンサルタンツ(株)長崎事務所、復建調査設計(株)長崎支社、豊福設計(株)長崎支社